

## まちづくり協議会 Web座談会結果の概要

日時：令和3年1月20日（水）・26日（火） 午前・午後 計4回  
 方法：Web会議  
 出席者：各まちづくり協議会の代表者 14名  
 ※4グループに分かれて実施

### ■当日の主な意見

#### 1 地域のまちづくり活動で、特徴的な取組やその効果

##### ○各地域の特性や問題点を踏まえ、創意工夫を図りながら幅広い活動を展開

- ・多くの地域で、防災・防犯、健康・福祉、環境美化、子育てなどの生活に密着した取組とともに、自然・文化・歴史等地域の資源をいかした活動を展開している。
- ・活動の企画に当たっては、地域の問題点を解決するため、若者向けの活動の企画や多様な組織と連携した企画等の創意工夫がみられた。
- ・誰でも自由に参加できる会議を開催したり、会議で発案された事業を積極的に取り入れている。こうした取組が人材発掘として、新たな団体や不足しがちな若者・女性とのコラボにつながっている。

#### 2 地域のまちづくり活動に取り組む上で、問題となっていることや改善したいこと等

##### ○人口減少により、後継者育成や人材確保が共通の課題、空家対策の必要性も

- ・各種団体の役員のなり手がなく、後継者育成も進んでいない状況で、役員の掛け持ちも多く、役員の負担を減らすべき。
- ・自治会では女性会がなくなっている地区もあり、女性の役員もほとんどいない。
- ・団体に所属せず個人的にまちづくり活動に取り組む人が増えたこと、定年延長や働き方の多様化等により、まちづくりにおける人材確保が難しい状況となっている。
- ・農業の後継者不足も深刻な問題。できる限り家族の中で跡を継いでもらうように取り組んでいる。また、女性にも農業機械の免許を取得してもらい積極的に関わってきてもらっている。
- ・農業法人を設立したことで、逆に、次の世代につながらなかったのではないかと感じている。5年先、10年先が見えない状況にある。
- ・空家はこれからの重要な課題。現在でも数多くの空家があるが、改修しても住めないようなものが多い。個人資産であるため、地域で出来るのは周辺のゴミ拾いや草刈り程度しかない。

##### ○改善に向けては、若者や女性の参画に加え、行政からの依頼による役員や会議の集約化などを要望

- ・役員の負担を軽減するために効率的な組織運営や、学生との交流を通じてまちへの愛着を育み、若手の参画を進める等の取組を行っている。
- ・まちづくり活動には多様な考え方も必要であり、女性にもっと参画してもらおう取組が必要
- ・同じような活動を行う団体が複数あることや、行政からの依頼によりさまざまな分野の会議に出席を求められる。行政や上部団体も含めて、会議や役割の簡素化・集約化を検討して欲しい。



当日の様子

#### 3 地域のまちづくり活動として、今後取り組んでみたいことや新たな企画、そのために必要な支援等

##### ○具体的な活動だけでなく、組織のあり方を見直す取組や新たな連携を模索する動きも

- ・役員の負担の軽減や活動の効率化・拡大等を求め、他団体との連携を進めている。地域内の自治会や各種団体だけでなく、隣接するまちづくり協議会やNPO等さまざまな団体と連携している。
- ・今後取り組みたい内容として、子どもを対象とした活動、地域資源を活用した活動、にぎわい・交流の創出に資する活動、障害者や幅広い世代が参画できる活動等が挙げられている。

##### ○新たな取組を進めるために行政からの支援を要請

- ・空家対策を積極的に進めるべき。相続を控えた空家予備軍を家の終活を見据えて取組を検討して欲しい。また、空家になる前の段階で、リバースモーゲージ的な発想で空家対策に取り組むべき。
- ・農業関係で様々な助成制度があるが、大規模農家に対するものが多く要件が厳しい。幅広い層が活用できる制度として欲しい。

#### 4 新型コロナウイルスの影響を受けて、地域のまちづくり活動の状況

##### ○イベントや会議等だけでなく、まちづくりに対する意識にも影響

- ・新型コロナウイルスの拡大に伴い、各種イベントの中止・変更、会議運営方法の変更等に影響があった。
- ・各種イベントが中止・変更となったことにより、まちづくりに対するモチベーションの低下を懸念する。

#### 5 新型コロナウイルス感染拡大以降も地域におけるまちづくり活動を実施するため、工夫したこと等

##### ○対策を徹底することに加え、新たな取組を開始

- ・手洗い、消毒、マスクの着用、三密回避等の対策の徹底を講じるとともに、各種イベントの規模縮小や代替活動を展開するなどして、まちづくり活動を継続している。
- ・代替活動として、まちづくりアンケート調査の実施や展示会の開催、花火大会の開催、これまでの活動をまとめる冊子の作成等の取組につながった。
- ・会議開催を短時間でを行うよう工夫するとともに、LINEやZOOMを活用した情報共有や打ち合わせ等を行ったことにより、これまでより時間や無駄が減った。

#### 6 新しい生活スタイルの中でまちづくり活動を行うためのアイデア、支援して欲しいこと等

##### ○ハード・ソフト両面での支援を要望

- ・引き続き、手袋・アルコール消毒液等を適切に整備できる体制支援をお願いしたい。
- ・デジタルツールの活用を進めるために、インターネット環境の整備、機器・機材の配布等のハード面での支援とともに、使い方等の研修会開催や仕組みの構築等のソフト面での支援をお願いしたい。

##### ○チャンスと捉えて、新たな取組に期待

- ・コロナ禍を契機として、密を避けるためにコミュニティセンターや活動スペースを拡張したい。
- ・都市部から田舎への移住が注目されており、田舎暮らしをいかした移住者支援を検討している。

#### 7 その他

- ・今後も、他のまちづくり協議会と意見交換する場を設けてもらいたいとの意見が多く、具体的に隣接するまちづくり協議会との会議を企画する意見も出された。